

五、熊本縣産は介殼生肉共著しく他縣産に劣り概して小型なり
 六、全羅南道産は成績愛知縣産に類似し小型なり

四、海洋調査

許田養殖場観測表

四、蛤養殖試験

一、趣旨

本縣沿岸に於ける淺海干潟の利用開拓上優良貝類を移植し之が養殖的價値を明にし以て淺海面の合理的利用の途を圖らんとす

二、施行月日

自昭和十年二月二十八日 但し三月一日より三日迄降雨に依り作業不能
 至全 三月 四日

三、試験の場所

試験地は國頭郡羽地村眞喜屋地先の通稱奥武渡し西方巨岸五十米にして勘手納灣東口の漂筋に當り附近には眞喜屋寄りて二、三の流入水あり一帯は砂泥庭を爲し一アケガヒ一リウキウバカガヒ等僅に棲息し水深は干潮時大部分露出すれ共滿潮時一乃至一米なり

四、種苗並に運搬經過

種苗は熊本縣水産會の幹旋に係る全縣産のもの總量四石にしに石油箱二十個に收容荷造りし昭和十年二月二十五日鹿兒島港出帆全二十七
 日那覇港入港の便船により到着せるものを便船の都合を以て一時本場冷蔵庫に入庫全三月一日更に試験地迄船便により運搬せるものなる
 が容器二十個の内六個は破損せり 尙放養時箱内の状況を觀察せるに泥土を混入せるものありて斃死三乃至四割に達せるもの尠からず泥
 土を混入せざるものは比較的斃死僅少に止りたるも平均斃死數は三割内外に止りたり

種苗の大きさ

	最	大	最	小	平	均	容	量	備	考
殼	長	四、九	四、一	三、二	三、七	四、五	一升ニツキ	八〇個乃至		
殼	高	四、一	三、七	三、七	三、七	八五個				

五、蒔 付

穀 巾	重 量
二、八	三、〇瓦
一、八	九、〇瓦
二、四	一、八五瓦

蒔付の場所は水面約二百五十坪を竹簀を用ひて區畫し内一部を更に十坪宛の二區畫とし都合三區畫を設け十坪宛の區畫に對しては坪當り一升及三升到蒔付け殘餘の二百三十坪に對しては當初二升蒔の豫定なりしも種苗の豫定數量を購入し能はざりしと斃死介穀の多數を生じたる爲約一升蒔の余儀なきに至れり